

ソーシャルワイヤー株式会社
2023年3月期 第1四半期決算説明資料

2022年8月5日

連結業績

売上【軟調】

- デジタルPR : クリップングサービスは増収、その他サービスは軟調に着地
- シェアオフィス : 国内市場はサテライト需要回復及び新規拠点オープンにより増収
海外拠点は拠点整理により減収

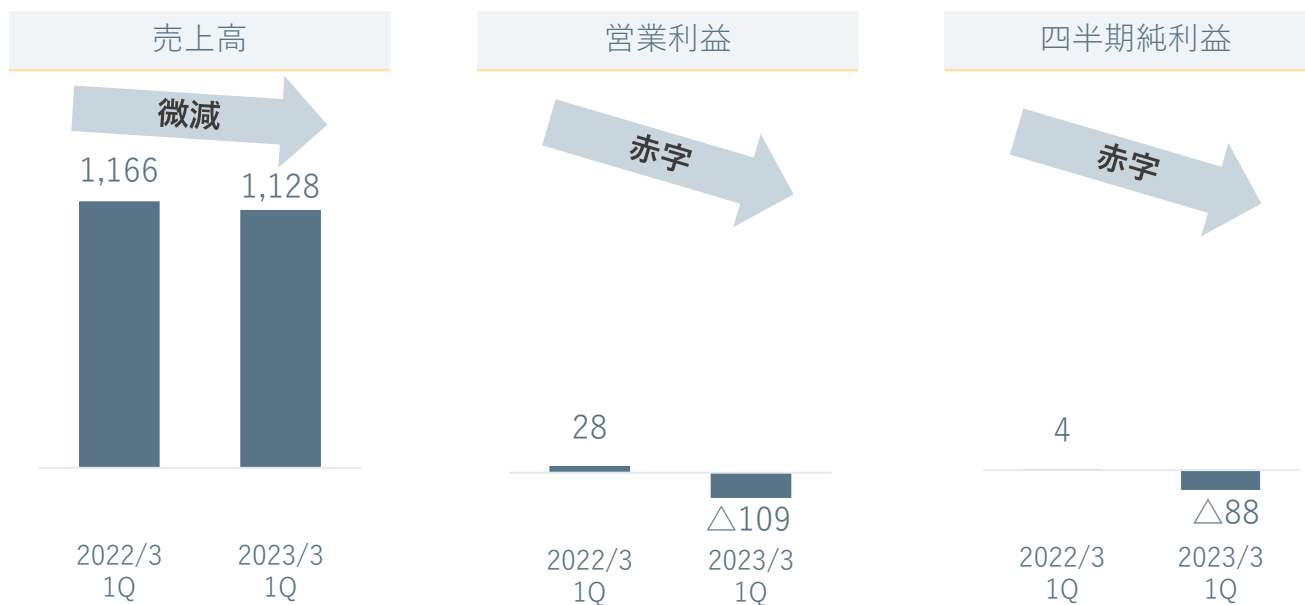
利益【悪化】

- デジタルPR : 売上軟調及び広告費・メディア連携費等の費用計上もあり減益着地
- シェアオフィス : 増収傾向も、新拠点開設による先行費用あり赤字着地

連結業績 (1 Q)

連結業績（1Q）

売上高	足踏み	1,128百万円	（前年同期比 96.7%）
営業利益	赤字	△109百万円	（前年同期 28百万円）
EBITDA*	悪化	△12百万円	（前年同期 144百万円）
四半期純利益	赤字	△88百万円	（前年同期 4百万円）



* EBITDA = 営業損失(利益)+減価償却費+のれん償却費（EBITDAについては監査レビューを受けておりません）

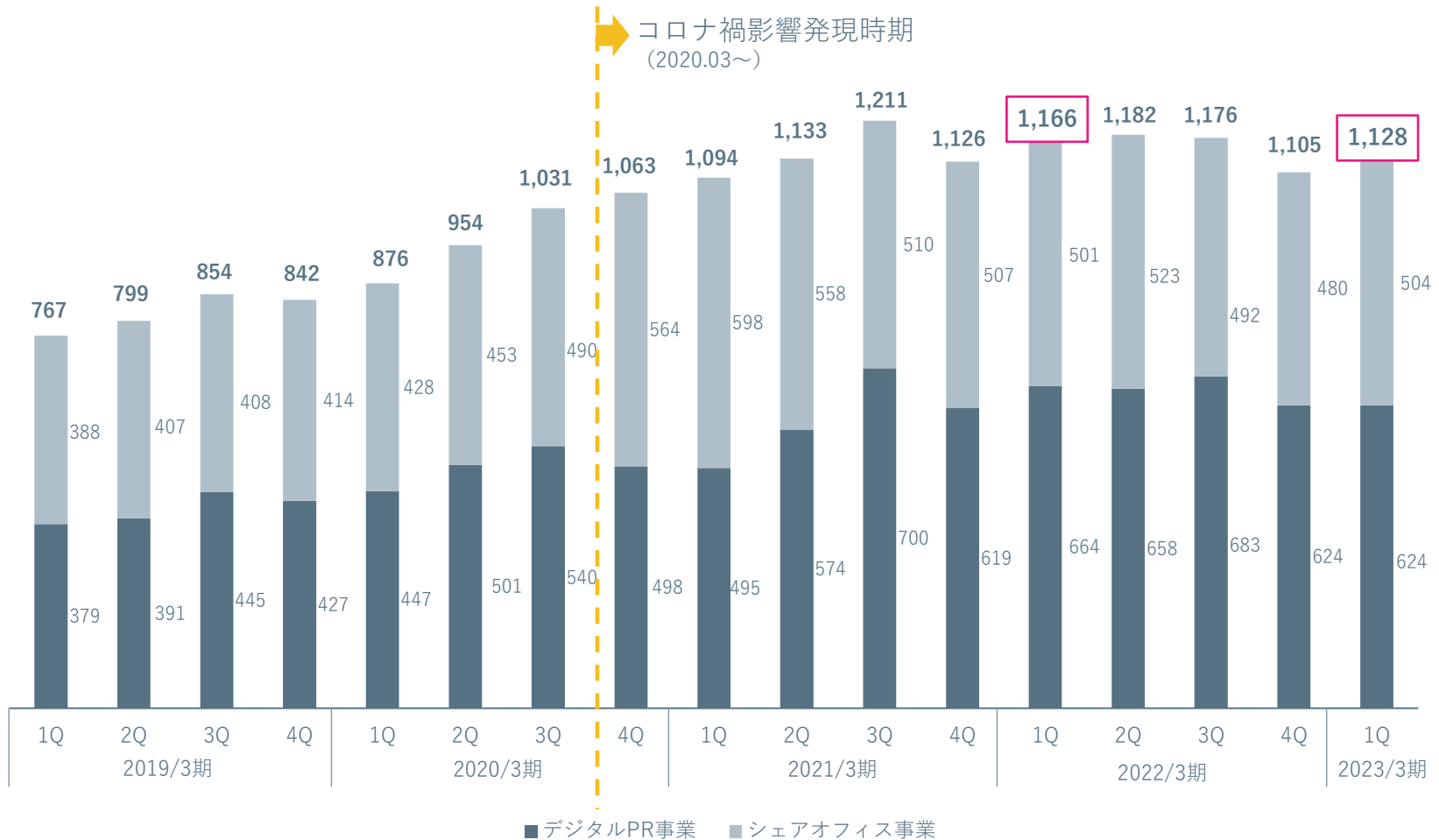
セグメント内訳 (1Q)

	デジタルPR	シェアオフィス	全社共通費	連結業績
売上高	624百万円	504百万円	—	1,128百万円
前期比	93.9%	100.4%	—	96.7%
セグメント利益	87百万円	△104百万円	△92百万円	△109百万円
前期比	54.3%	—	—	—
セグメント利益率	14.0%	△20.6%	—	△9.6%
EBITDA*	112百万円	△34百万円	△90百万円	△12百万円

* EBITDA = 営業損失(利益)+減価償却費+のれん償却費 (EBITDAについては監査レビューを受けておりません)

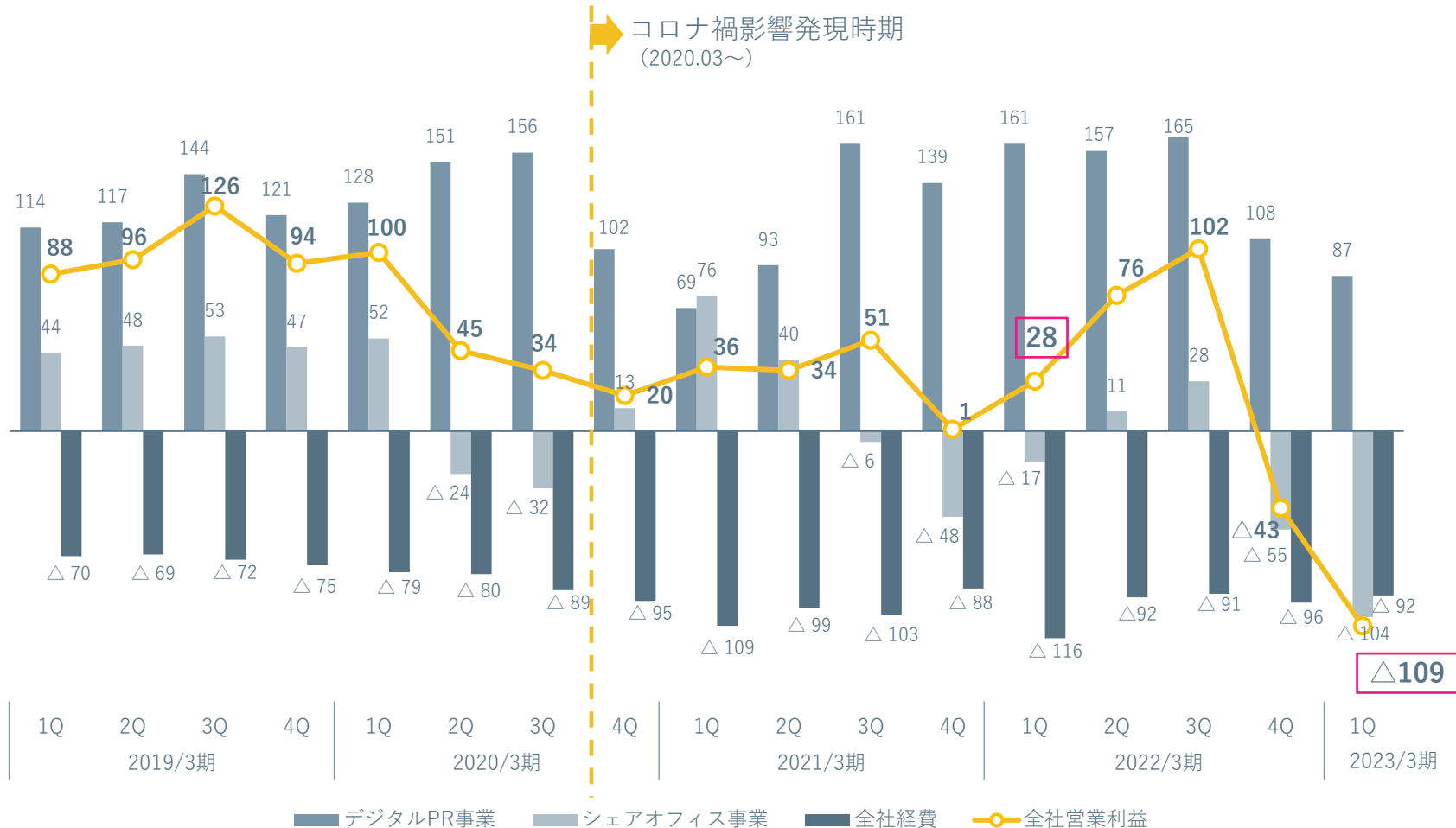
売上高 (百万円)

- デジタルPR事業 : クリップングサービス牽引も、インフルエンサーPRサービス軟調によりYoYで減少
QoQでは横ばい
- シェアオフィス事業 : YoY、QoQともに新規拠点開設効果により増収



営業利益 (百万円)

- デジタルPR事業は広告宣伝費の増加に加え、インフルエンサーPRの軟調により減益
- シェアオフィス事業は新拠点開設による先行費用もあり赤字

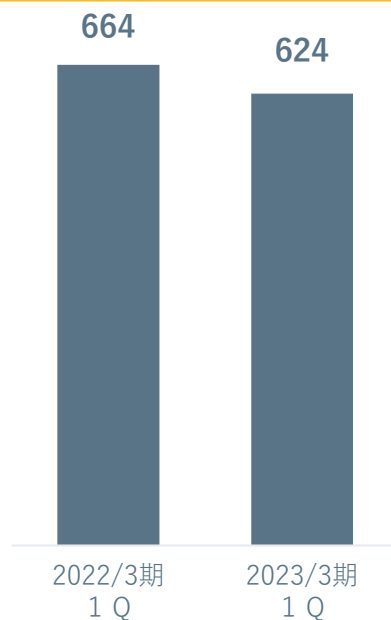


デジタルPR事業

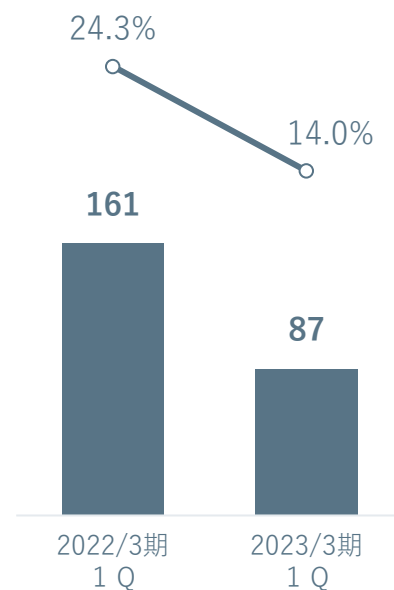
業績（1Q）

売上高	624百万円（前年同期比 93.9%）
セグメント利益	87百万円（前年同期比 54.3%）
セグメント利益率	14.0%（前年同期比 △10.2ポイント）

売上高

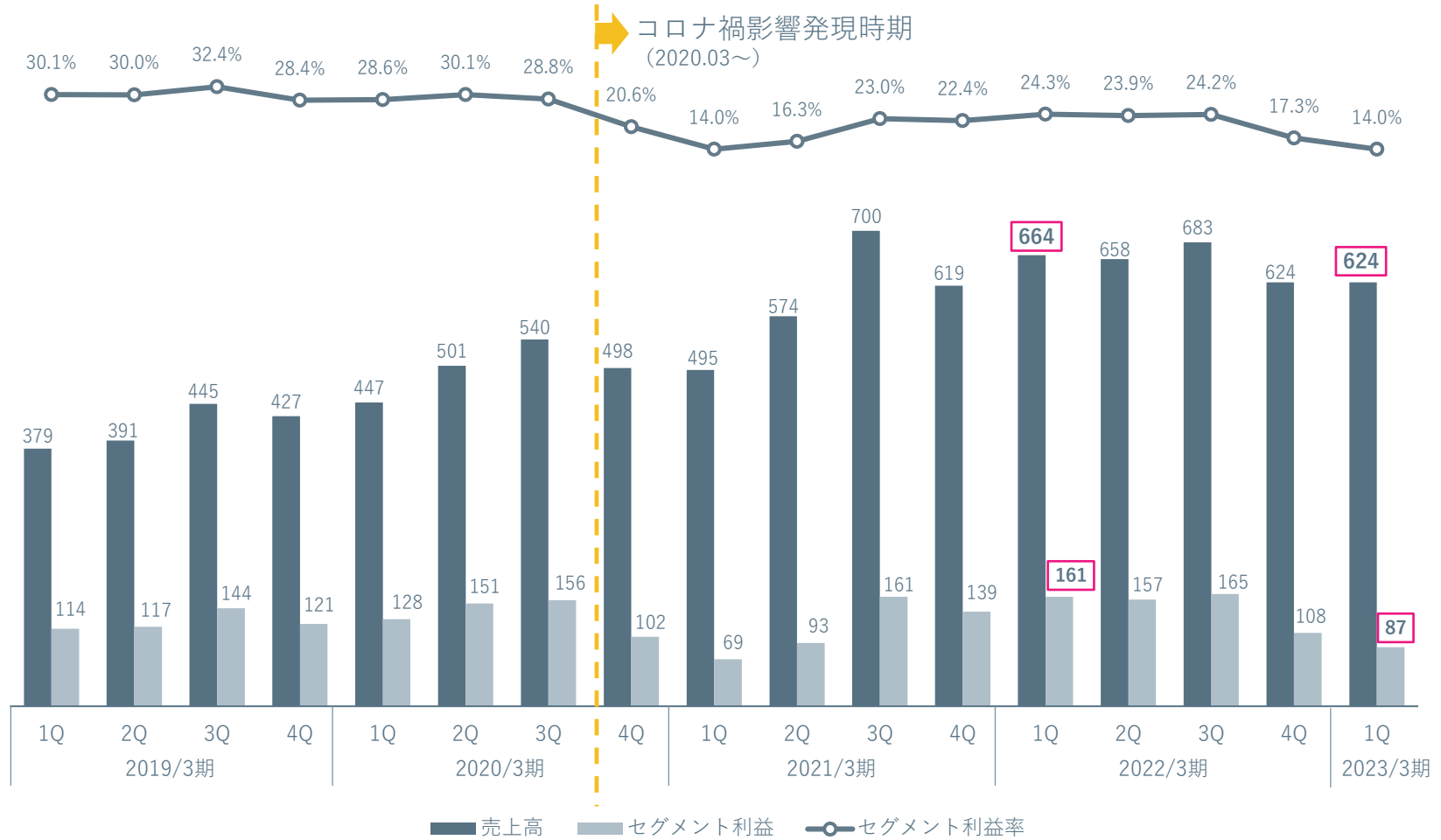


セグメント利益（率）



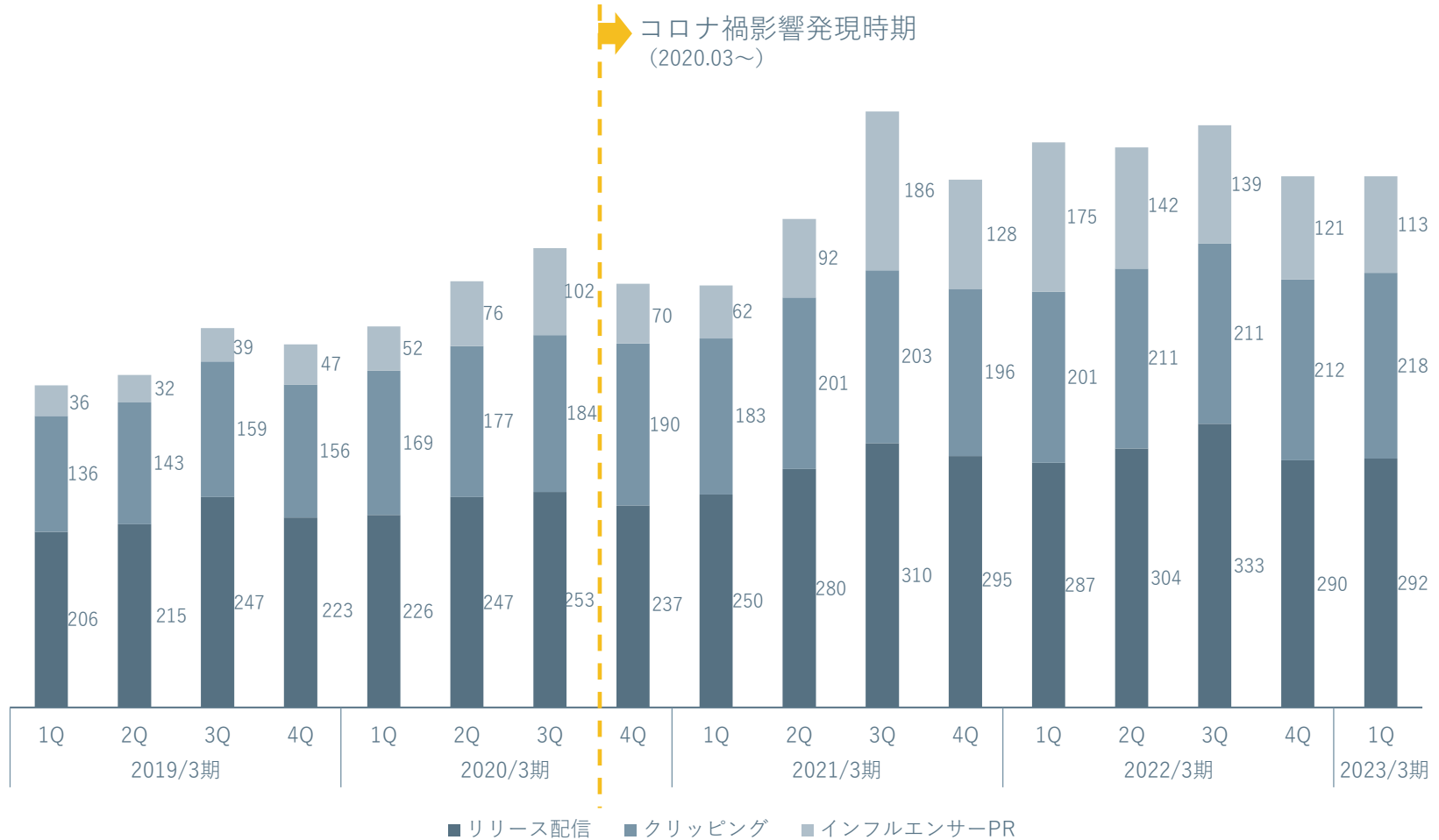
広告費・メディア連携費等の費用計上、インフルエンサーPRサービス軟調により、減収減益

売上高／セグメント利益／セグメント利益率（百万円）



売上高は一定水準を維持も、付加価値向上施策への一時的な注力もあり成長鈍化
セグメント利益は、主に広告費・メディア連携費等の費用計上により減益

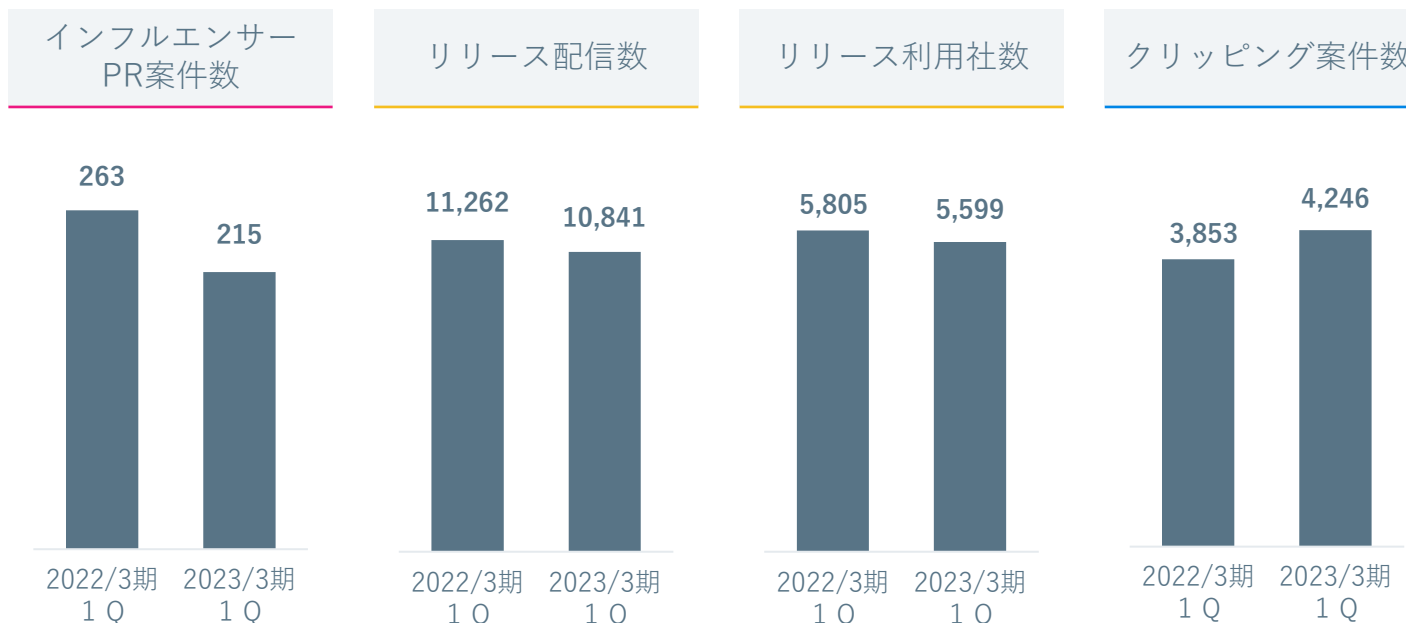
売上高内訳（百万円）



クリッピングサービス・リリース配信サービスは堅調
インフルエンサーPRサービスは、営業活動の低迷もあり減収

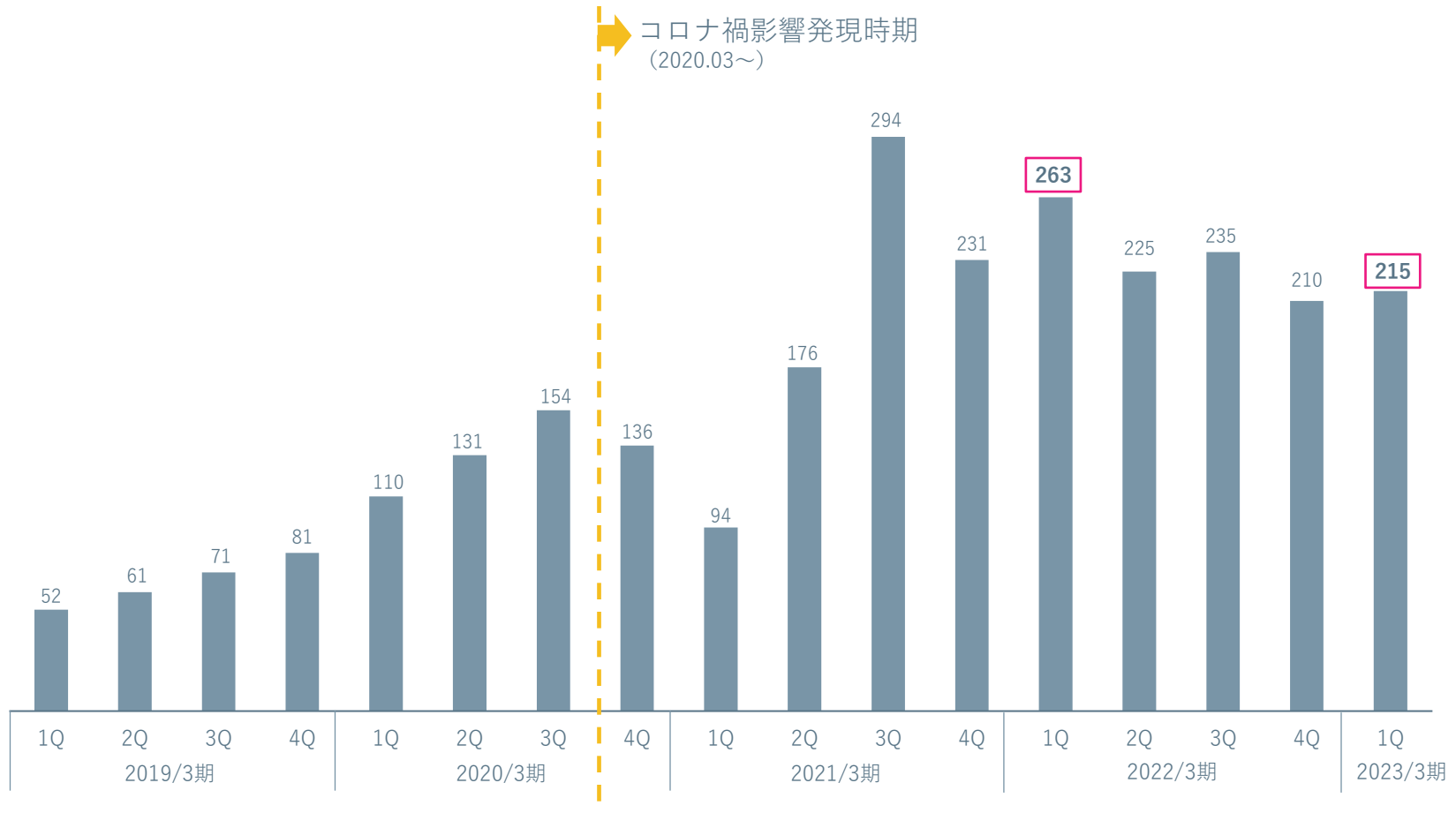
KPI (1 Q)

インフルエンサーPR案件数	215件 (前年同期比 81.7%)
リリース配信数	10,841件 (前年同期比 96.2%)
リリース利用社数	5,599社 (前年同期比 96.4%)
クリッピング案件数	4,246件 (前年同期比 110.1%)



特にインフルエンサーPR案件数の落ち込みが顕著、リリース配信も含め1Qでは軟調傾向

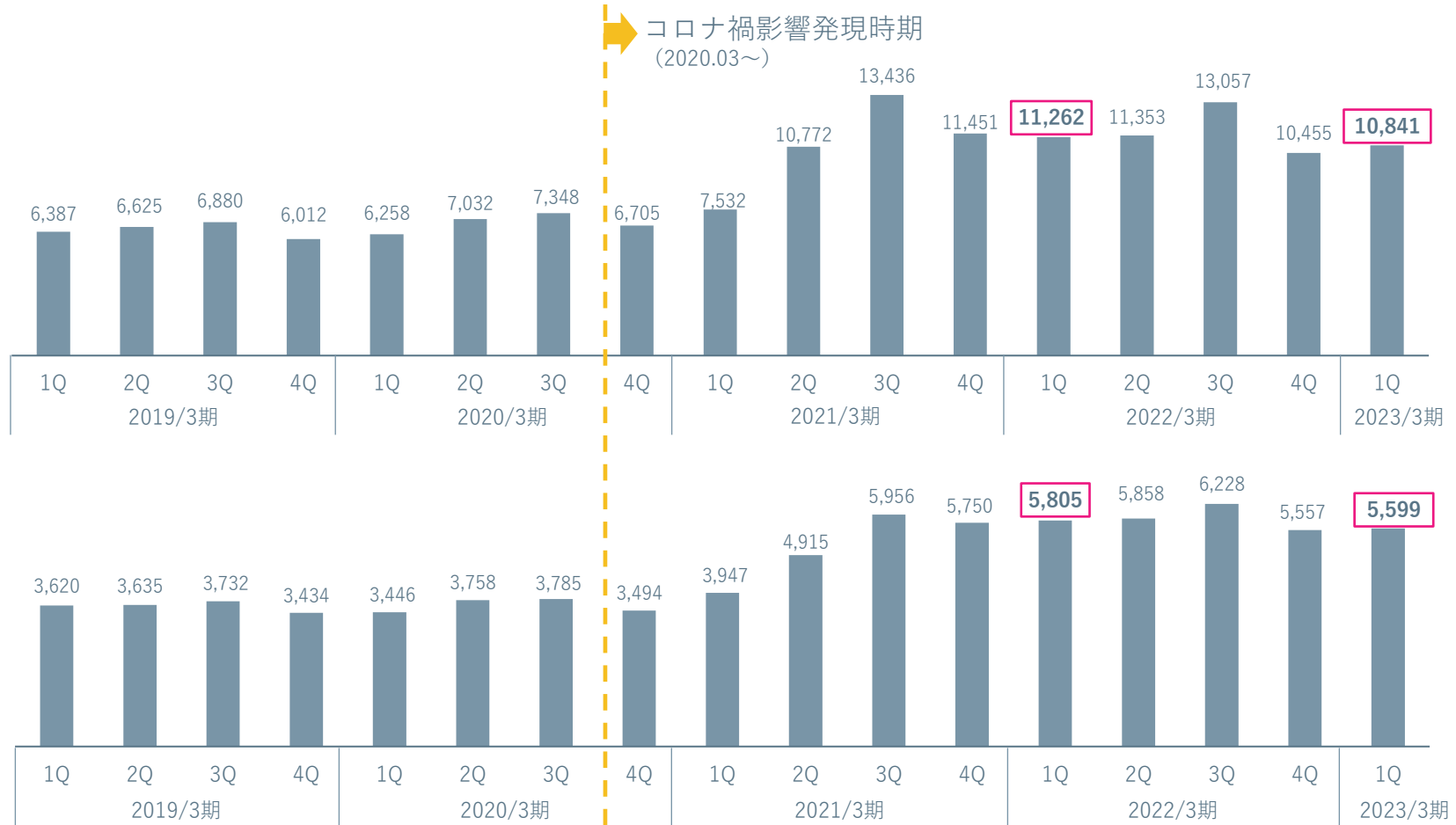
インフルエンサーPRサービス（案件数）



QoQでは案件数維持

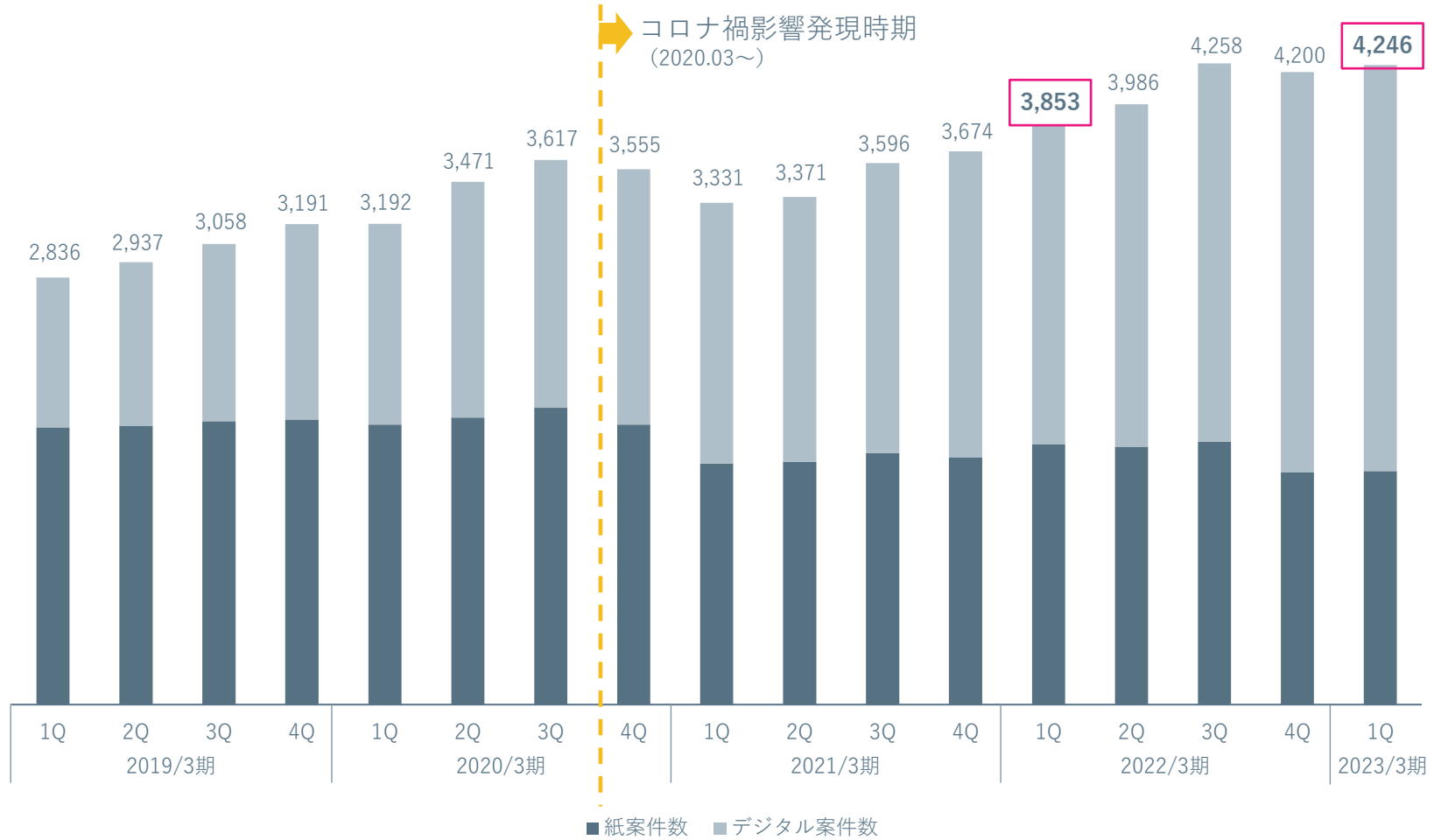
リピートにつながる付加価値向上施策等の種まきに注力したこともあり、案件数足踏み推移

リリース配信サービス（上段：配信数／下段：利用社数）



QoQでは配信数・利用社数はほぼ横ばい
大型連休前後の動きが軟調だったこともあり、YoYでは減少

クリッピングサービス（案件数）



紙案件数は横ばい傾向も、取引先チェックサービスは順調に拡大し、YoYで110%の伸び

リリース配信サービス「@Press(アットプレス)」、初のタクシーCMを放映

タクシーCM動画「伝説のカレー篇」

放映媒体：タクシーサイネージ「GROWTH(グロウス)」

(動画URL：<https://youtu.be/7cYsBFYW9wl>)



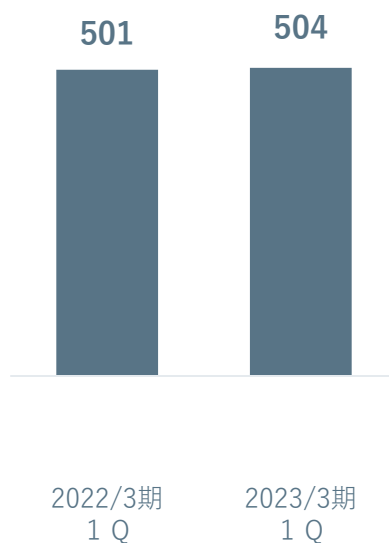
“企業が認知させたい情報”と“メディアが欲しい情報”のマッチング精度の高さ
⇒ 「@Press」の強みと特長をわかりやすく表現

シェアオフィス事業

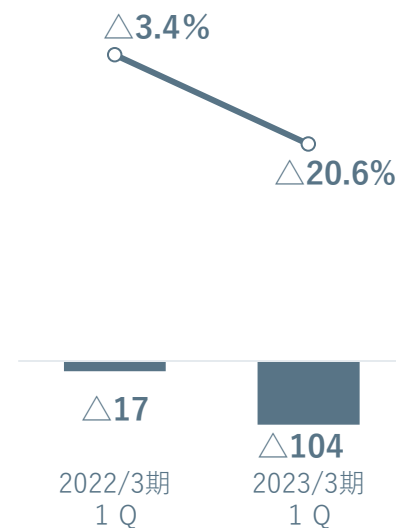
業績（1Q）

売上高	504百万円	（前年同期比 100.4%）
セグメント利益	△104百万円	（前年同期 △17百万円）
セグメント利益率	△20.6%	（前年同期 △3.4ポイント）

売上高

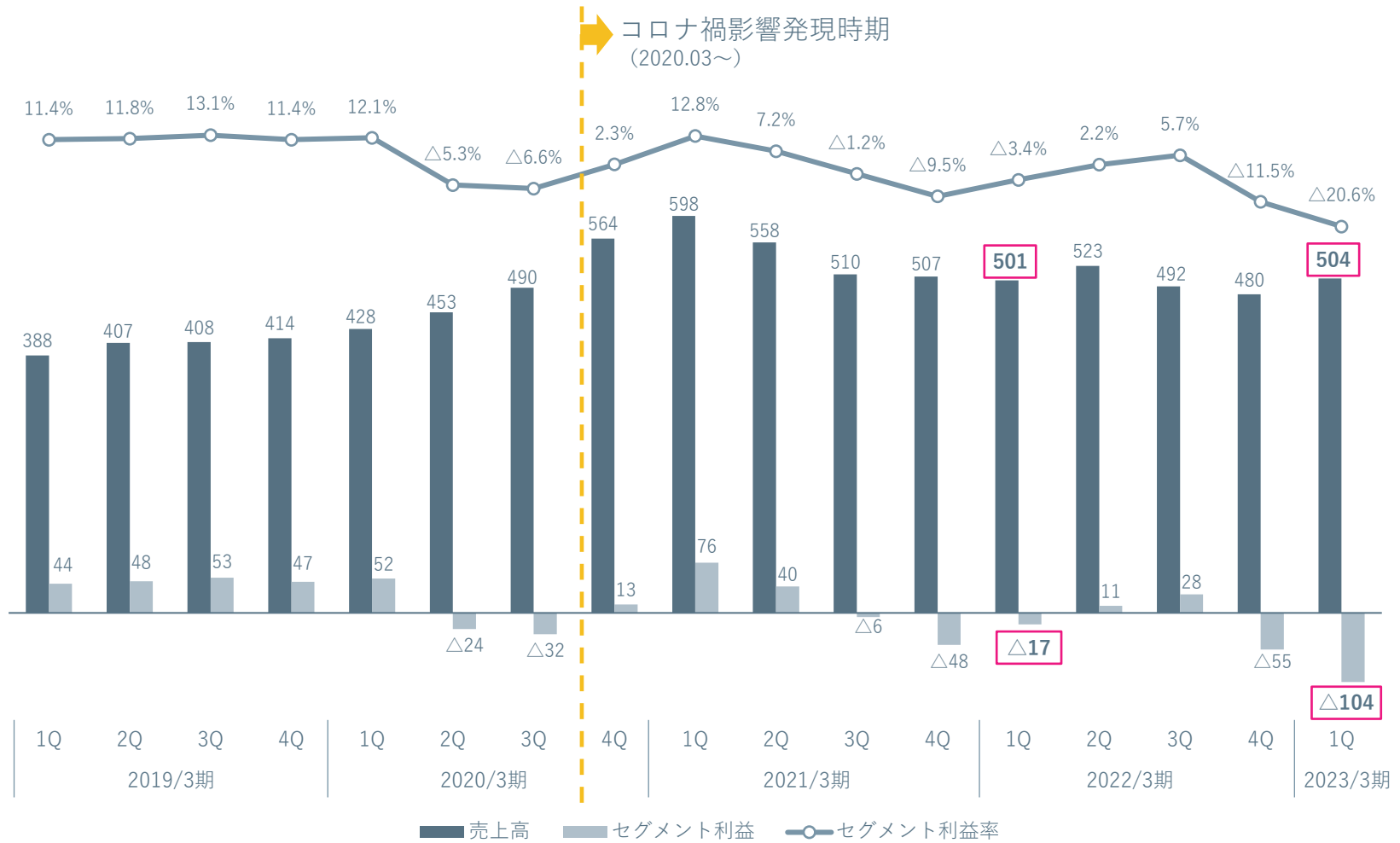


セグメント利益（率）



海外拠点を縮小させつつ、国内拠点において日本橋、福岡エリアをオープンし売上増（利益としては、特に新拠点の開設に伴う費用負担増による減益影響大）

売上高／セグメント利益／セグメント利益率（百万円）



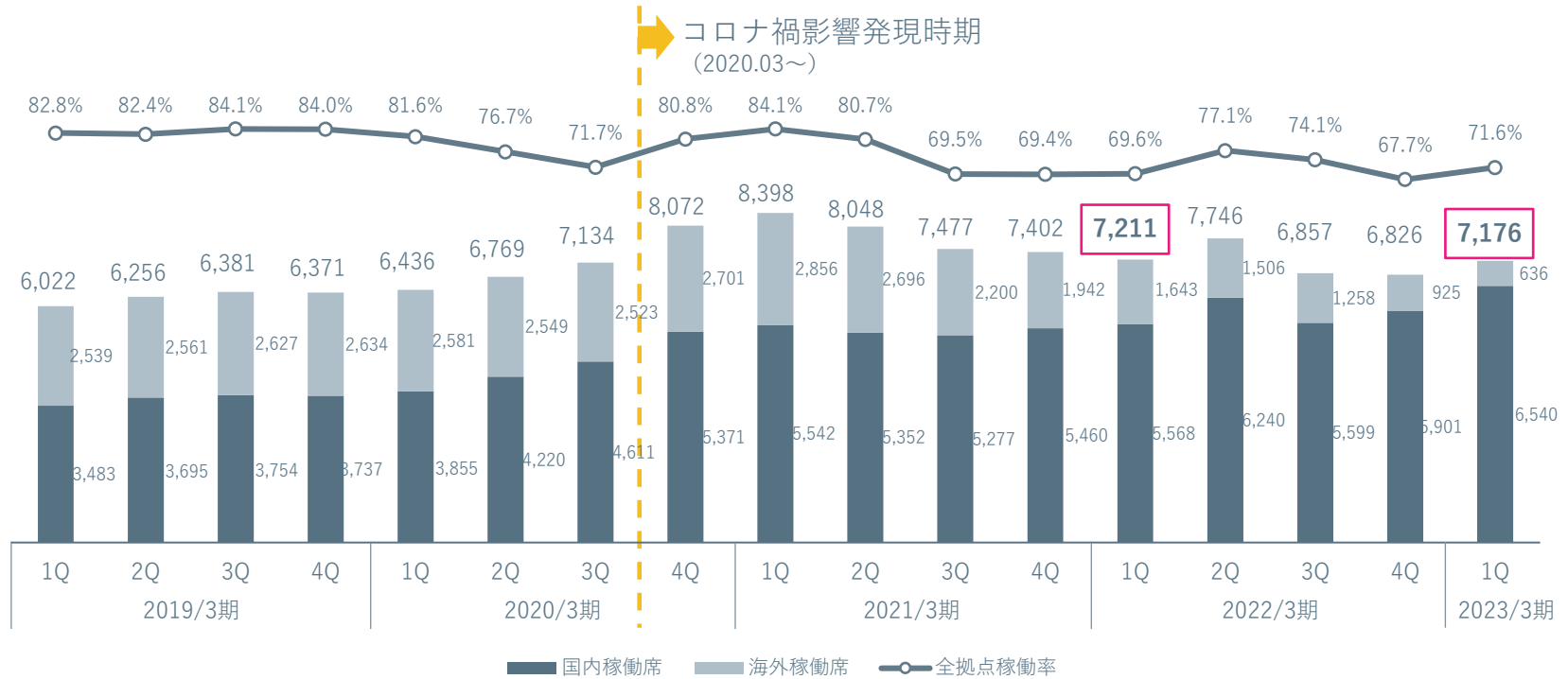
売上高は国内の新拠点開設（日本橋、福岡）によりYoY、QoQともに増加
セグメント利益は新拠点開設による先行費用もあり赤字（見通しから乖離なし）

KPI（累計稼働席数）／稼働率

累計稼働席数（国内） 6,540席（前年同期比 117.4%）

累計稼働席数（海外） 636席（前年同期比 38.7%）

累計稼働席数（合計） 7,176席（前年同期比 99.5%）



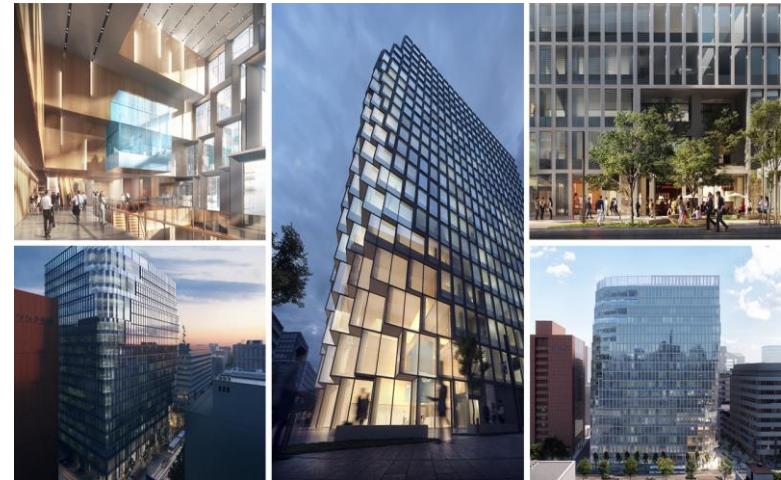
国内は新拠点（日本橋、福岡）開設の効果もあり増加、海外は撤退・縮小が順調に進捗稼働率は、海外拠点の統廃合進行しつつも、国内拠点のけん引により70%台に回復

レンタルオフィス「CROSSCOOP福岡」 2022年6月に新規オープン

- 九州地域No.1の高品質／徹底した高セキュリティな設備を兼ね備えた高価格帯商品
- BCP対応のハイグレードオフィス
- 天神ビッグバン（天神開発プロジェクト）の中心ビルへの企業誘致

「CROSSCOOP福岡」概要

所在地	福岡県福岡市中央区天神1丁目 10番20号
アクセス	地下鉄空港線「天神」駅直結 西鉄「西鉄福岡(天神)」駅、地下 鉄七隈線「天神南」駅徒歩1分
施設規模	約28部屋 座席数500席／ 会議室5部屋（約713坪）



- 外資系企業の「日本進出拠点」や首都圏に本社を置く企業の「福岡支社」九州全域の企業の「福岡営業所」等のニーズ取り込みを狙う

連結財務諸表

	2022/3期		2023/3期	
	1Q (百万円)	通期 (百万円)	1Q (百万円)	前年同期比
売上高	1,166	4,630	1,128	96.7%
売上総利益	519	2,160	443	85.3%
EBITDA*	144	588	△12	—
営業利益 (営業利益率)	28 (2.4%)	164 (3.5%)	△109 (△9.6%)	— (△12.0ポイント)
経常利益	20	137	△97	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4	28	△88	—

* EBITDA = 営業損失(利益)+減価償却費+のれん償却費 (EBITDAについては監査レビューを受けておりません)

	2022/3期末		2023/3期 1Q末			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期末比 (%)	主たる変動要因
流動資産	1,423	28.6	1,506	28.1	105.8	・借入により現預金が増加
固定資産	3,554	71.4	3,863	71.9	108.7	・CRC新拠点の設備投資による増加
資産合計	4,977	100.0	5,370	100.0	107.8	
流動負債	1,779	35.8	2,239	41.7	125.8	・CRC新拠点未払金による増加
固定負債	2,133	42.8	2,151	40.1	100.8	・短期借入金による増加
負債合計	3,913	78.6	4,391	81.8	112.2	
株主資本	1,040	20.9	951	17.7	91.5	
（自己株式）*	(△83)	(△1.6)	(△83)	(△1.5)	—	
非支配株主持分	12	0.2	7	0.3	60.4	
その他	11	0.2	19	0.1	169.8	・為替換算調整による増加
純資産合計	1,064	21.4	978	18.2	91.9	
負債・純資産合計	4,977	100.0	5,370	100.0	107.8	

* 自己株式金額は株主資本金額の内数

2023年3月期業績予想

	2022/3月期 (百万円)	2023/3月期 業績予想 (百万円)	2023/3月期 1Q (百万円)	2023/3月期 1Q進捗率 (百万円)
売上高	4,630	5,000	1,128	22.5%
営業利益	164	△155	△109	—
営業利益率	3.5%	△3.1%	△9.6%	△6.5pt
当期純利益*	28	△180	△88	—
ROE	2.6%	△18.6%	△9.0%	9.6pt

* 親会社株主に帰属する当期純利益

【期初見通しから変更なし】

売上高について、軟調な部分あるもののおおむね進捗どおり
利益面については、広告宣伝費や新拠点開設による費用計上あるものの、進捗どおり

全ての魅力にスポットライトが当たる社会へ



<本資料の取扱いについて>

本資料に記載されている契約や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

当社が事業環境の説明を行う上で、参考となると考える情報を掲載しております。掲載データについては、調査方法や調査時期により結果が異なる可能性があります。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。本資料・データの無断転用はご遠慮ください。

IRに関するお問い合わせ <https://www.socialwire.net/contact>
株主・投資家の皆様へのメッセージ <https://www.socialwire.net/ir/messagelist>